

物流における環境配慮

サプライチェーン全体を見据えた物流の合理化・効率化を推進し、環境負荷の低減に努めています。

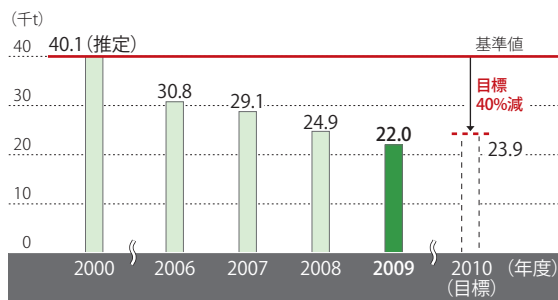
物流に伴うCO₂排出量の削減

富士通グループでは、グループ各社の物流部門が連携し、製造部門や営業部門とも協力しながら、輸送に伴うCO₂排出量の削減を推進する「グリーン物流活動」を推進しています。また、お取引先とのパートナーシップを活かして、サプライチェーン全体にわたって、物流に伴う環境負荷の低減に努めています。

また、富士通は、第5期環境行動計画で掲げられた「輸送CO₂排出量を2010年度末までに2000年度比40%削減」の実現に向けて、モーダルシフトの拡大やトラック台数の削減に取り組みました。その結果、2009年度で2000年度比45%削減(物量変動の影響を含めると、目標を達成することができました。

今後は、富士通国内グループで、「2012年度末に2008年度比11%削減」をめざして活動します。

輸送CO₂排出量推移(富士通)



※ 富士通セミコンダクター(株)を含む。

モーダルシフトの適用拡大

富士通では、モーダルシフトによるCO₂排出量の削減に取り組んでおり、鉄道輸送と海上輸送の効果的な活用や、航空便輸送の比率の引き下げを進めています。

2009年度は、パソコンと携帯電話のモーダルシフトをさらに推進するとともに、調達部材についてもモーダルシフトを拡大しました。

■ 携帯電話

2009年度は、富士通モバイルフォンプロダクツ(株)と富士通周辺機(株)からお客様の指定倉庫への輸送について、鉄道輸送の拡大を進めた結果、国土交通省ならびに社団法人鉄道貨物協会が制定する「エコレールマーク商品」の認定を取得しました。富士通では、デスクトップパソコン、PCサーバに続いての取得となります。今後さらに鉄道輸送を積極的に活用し、環境負荷低減に取り組んでいきます。



エコレールマーク
エコレールマーク

■ パソコン

2009年10月から、北海道向けの法人向けノートPCとモニターについて、島根富士通(株)、富士通周辺機(株)から東京物流センターまではトラック輸送、東京物流センターから札幌ターミナルまでは従来のトラック輸送から鉄道輸送に切り替えました。

■ 調達部材

2009年8月から、海外からの輸入調達部材について、東京港から富士通アイソテック(株)への輸送の一部をトラック輸送から鉄道輸送に切り替え、鉄道輸送の適用拡大を実現しました。この鉄道輸送には20フィートの海上コンテナが利用されています。

トラック台数の削減

富士通では、国内の製品輸送ルートの見直しや、グループ会社間での荷物の積合せの拡大、2段積トラックの適用、出荷の標準化など、積載効率の向上を図り、トラック台数の削減を実践しました。

輸送モードの切り替え

富士通は、東西2拠点の保守部品の補給倉庫から遠隔地(東北、九州の一部)のパーツセンターへの部品補給の輸送について、納品時間を調整することで、航空輸送からトラックによる陸上輸送に切り替えることができました。

物流に伴う環境負荷の低減

富士通グループでは、物流プロセス全体で環境負荷の低減を進めるべく、製品や部品の包装において3R化を推進しています。

段ボールなど梱包資材の使用量削減

富士通グループの製品に使用する段ボールなどの梱包資材について、リユース可能な代替品への切り替えを推進しました。その結果、段ボールや緩衝材の使用量を削減することができました。



サーバ用エア系プロテクター



ノートPC用リターナブルコンテナ